

留学体験レポート

21017068 新保 拓人

私は本学の派遣留学制度を利用し、2018年8月27日から2019年1月7日までの133日間、中国の北京師範大学に留学してきました。この4か月の間、様々な経験をする事ができました。ここでは学校生活で感じたことを述べていこうと思います。

授業が始まった頃は、先生の中国語が聞き取れずにとっても苦労しました。先生は私たちが理解できるように簡単な中国語を選んで話していたが、聞くだけではほとんど理解出来ませんでした。また、同じクラスの外国人学生は漢字は書けない、読めないが話すこと、聞くことは得意という、日本人とは真逆の中国語能力なので、私はいつも授業に遅れをとっていました。私は授業についていけず、クラスに馴染めない状態にとっても悩みました。しかし、日が経つにつれて徐々に中国語が耳に入っていくようになり、先生の話も少しずつ理解できるようになりました。それは、私が自分に合った中国語の学習方法を見つけたからだと思います。授業以外の自主学習では、主に予習に重点を置きました。授業は1対1ではないので、最初は周りとの遅れをとって迷惑をかけたくないという気持ちで一生涯懸命に予習をしていました。授業に慣れるにつれて、ただ授業を聞いているだけではなく、自分の国について話すことが出来るようになり、しっかりと授業に参加することが出来ました。クラスメイトと話すことも増え、授業で習った単語を使用して話したりして、とても有意義な時間を過ごすことができました。クラスメイトとはよく昼食や夕食を一緒に食べに行ったりしていました。そこでお互いの国の文化や慣習、価値観について話したことは今後の自分の考え方や捉え方を変える、とても貴重な経験になりました。また、クラスで行ったカラオケでは、それぞれが自国の歌を歌ったり、誰でも知っているような歌をそれぞれの国の言葉で歌い合ったりと、日本ではできないような経験が出来ました。クラス以外にも多くの国の友達ができ、一緒に中国語の勉強をしたりお互いの言葉を教え合ったりしました。今でも連絡を取り合っているくらい仲良くなった人もいます。

この4か月間の留学生活は、私にとってとても貴重な経験になりました。実際に住んでみることによって、語学だけではなくその国の文化や慣習を身をもって感じるということがとても大切であると思いました。今後は中国語ばかりの生活とは離れてしまい、中国語力の低下が課題となってきます。今後も中国語を学んでいくとともに、他国への理解を深めて、変わらず精進していきたいと考えます。